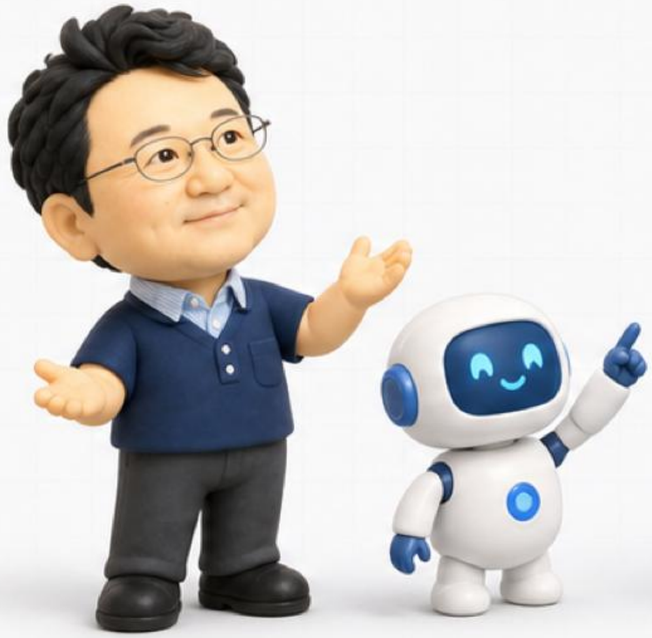
生成AI利活用ワークショップ ～ イントロダクション ～

未来の技術者必修！生成AI活用とAI駆動開発の基礎を1.5日で完全習得

株式会社原子力エンジニアリング 解析サービス本部 システム技術グループ 主幹技師長

博士(工学) 巽 雅洋





本ワークショップの構成

DAY 1

1. イントロダクション (10:00-10:30)

2. 生成AIの衝撃 2026 (10:30-11:30)

3. AI駆動開発の体験 (12:30-14:00)

4. AI駆動開発の環境整備 (14:15-16:15)

DAY 2

5. 開発実践(1) (16:30-18:00)

6. 開発実践(2) — 自由制作の仕上げ (9:00-10:45)

7. ライトニングトーク大会 + まとめ (11:00-12:00)

本ワークショップの楽しみ方



分からないことがあれば、それはチャンス。
すぐに質問しましょう



参加型です。どんどん発言してください



とにかく手を動かす。読むより打つ



詰まったら、まず生成AIに聞く



後半にハードルがあります。
越えたときが一番気持ちいい

全員でゴールまで走りきりましょう

自己紹介



巽 雅洋（たつみ まさひろ）
— 大阪出身。博士(工学)

趣味: 旅行、写真、コンピュータ全般





天文学（小学生）→ 電子工作（中学生）→ マイコン（高校生）

計算手法開発・HPC（30代）

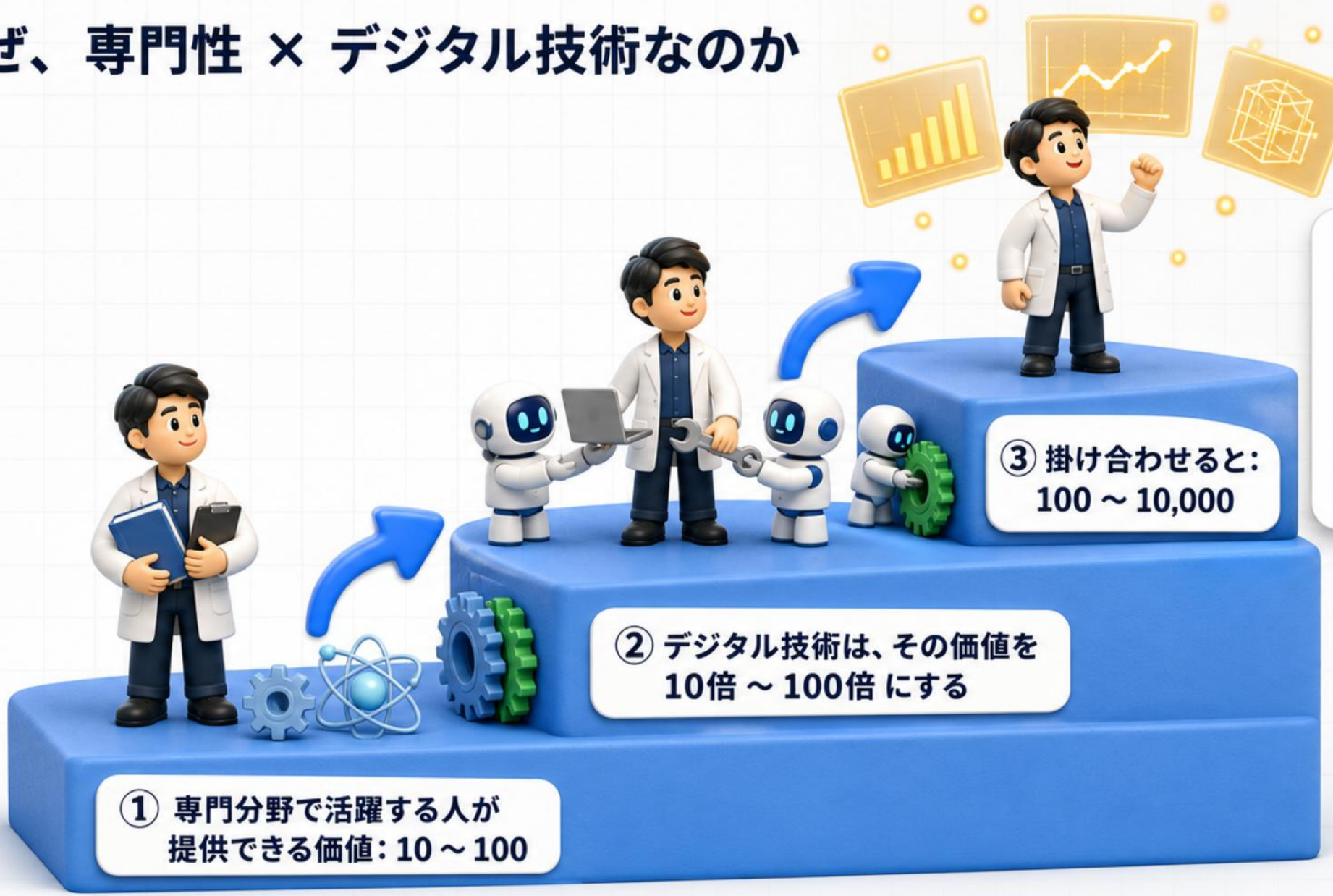
教育用シミュレータ開発（40代）

デジタル技術活用・人材育成（現在）



ソフトウェア開発 + 原子力工学（大学・大学院）

なぜ、専門性 × デジタル技術なのか



専門 × デジタル
＝
DX
（Digital Transformation）

デジタル技術で、従来のプロセス・文化・体験を根本から変える

○型人材 ― 学び方の型は、変わってきた

従来の学び方 → これからの学び方



I型：一つの分野を深く

T型：深い専門 + 幅広い教養



櫛型：深い専門を三本以上

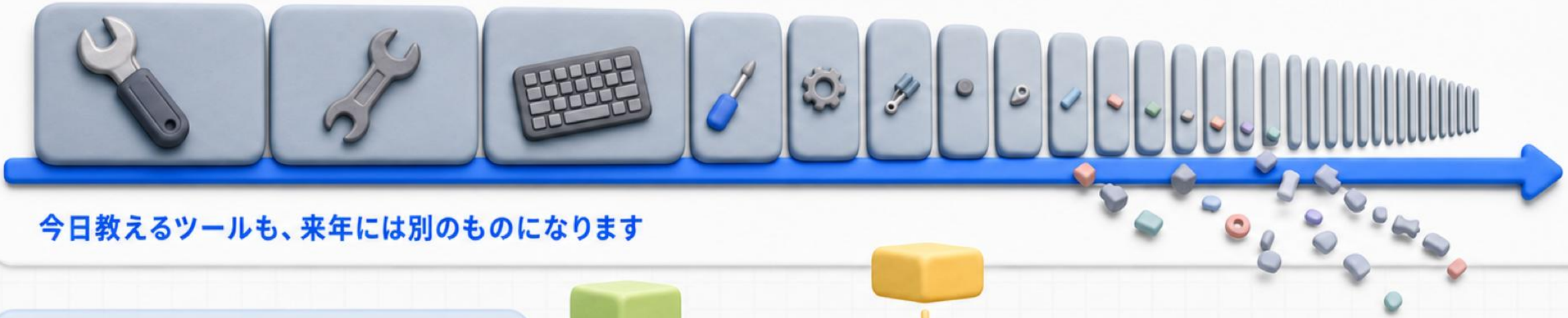
π型：深い専門を二本
＝ 原子力 × デジタル

超櫛型：櫛形を横にも縦にも広げていく

スキルより、マインドセット

かつて：覚えた技術は5年、10年使えた

いま：陳腐化のサイクルは1年を切った



今日教えるツールも、来年には別のものになります

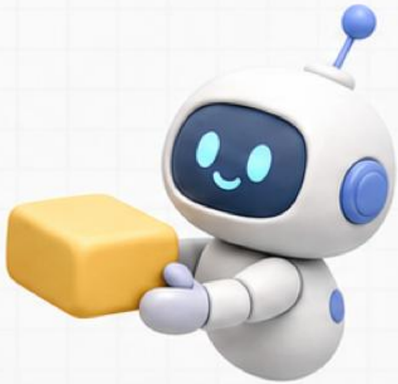
問い：1年後に古びないものは、何だと思いますか？





それでも積み上がるもの ① 継続的学習





それでも積み上がるもの ② 内発的動機 ― 自分が作りたいから作る

ドメイン知識の深掘り

AIが書けるのは、コードまで

AIができないこと: あなたの現場で何が本当に困っているかを知ること



AIができること: 書く・直す・調べる・説明する



何を作るべきかは、経験と現場感からしか出てこない

問い: あなたの分野で、
まだ誰も作っていないものは何ですか?

Mindset is Everything



● Why → Act（なぜやるのか → まず動く）



● How → Try（どうやるのか → 試す）



● What → Learn（何をやるのか → 学ぶ）

1.5日後、あなたはここにいます



自分で仕様書を書き、AIにアプリを作らせている



自分のPCが、2026年標準の開発環境になっている



自作アプリが、GitHub のリポジトリに置かれている



その作品を、2分間のライトニングトークで発表している



次は、その相棒がいまどこまで来ているのかを見にいきます